

権力・動労本部連合粉碎!

日刊 動労千葉

82,4,22

No. 1026

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)四三二七・二〇七

「本部」派を解体するぞ!

千葉県警・佐倉署は4月9日、動労「本部」派組合員小川建二に対する、八〇年七月五日の佐倉機関区乗務員詰所での説得オルグをとらえて、「監禁強要被疑事件」なるものをデッチ上げ、大須賀君、川嶋君(成田支部)、宮内君(佐倉支部)に任意出頭攻撃をかけてきた。加えて、船橋西署は4月16日、同じく小川建二に対する八〇年六月二三日の津田沼署での説得オルグを「不法監禁」などとデッチ上げ、滝口君(幕張支部)、錦織君(成田支部)、吉野君(勝浦支部)への任意出頭攻撃をかけてきている。

第二臨調「民営・分割論」をはじめ、「ヤミ・カラ・国賊」キャンペーンを利用し、悪慣行は正、職場規律確立に名をかりた既得権剥奪攻撃など、国鉄労働運動解体攻撃がますます激化するなかで、権力・国鉄当局・動労「本部」革マル一体となった動労千葉破壊の攻撃が、いよいよ開始されたのだ。

嶋田のVサインこそ革マルの本音

動労「本部」革マルは、政府・国鉄当局の攻撃の前に完全に屈服し、「国鉄を守れ」と叫んで「働き度を高める運動」路線を機関決定し、ネクタイをしめ、ワッペン・腕章をはずし、電車の背面カーテンをあげ、自らビラをはがすというところまで屈服を深めている。彼等は革マルとして生き残ることだけを考え、労働者の魂と権利を売り渡し、当局と対決して闘う部分に対しては、権力と手を組んで襲いかかっている。

「6・12」をデッチ上げた手口を見よ。

公判のたびに権力の目前で告訴人「権力側証人」革マル分子・嶋田誠が示す「Vサイン」を見よ。嶋田の「Vサイン」は文字通りこのデッチ上げ告訴を通じてなにがなんでも「有罪」にして獄中にぶちこみ、国鉄をクビにさせてやるということなのだ。

これが労働者といえるのか。憎みてもあまりある権力・当局の手先以外のなにものでもない。

説得オルグ「監禁」は、新たな労働運動解体の手口

小川建二のタレコミを見よ。広島からの短期転勤者で現在はずでに帰任している「本部」派・小川建二に対して、二年前、動労千葉は説得オルグを行った。自分でころんでも「暴力をふるわれた」とデッチ上げる卑劣分子が今度はオルグを「監禁された」とタレコミを行ったのだ。

動労千葉の多くの組合員が、「本部」革マルの暴力によって負傷させられてきた。すべての組合員が職場で、出先(中野、東京、田端、武蔵、我孫子等)で、数十名に取り囲まれて不当な脅迫的

行為を幾度となくやられてきたのだ。

「本部」革マル分子よ、「本部」派組合員よ、自分たちは動労千葉組合員に対してあらん限りの暴力行為をはたらいておきながら、動労千葉の理を正した整然とした説得オルグをさして、何故に「監禁」などと騒ぎ立てるのか。全く卑劣そのものである。

これが動労「本部」革マルの姿なのだ。動労千葉は「本部」革マルを絶対に許さず、6名を守りきり、6名と家族の苦闘を我がものとし、全組織をあげて不当弾圧を打ち破り、「本部」派を解体する決意である。

全支部で反撃を開始する

すでに動労千葉は臨戦体制を指示するとともに、4支部を先頭に全支部での反撃体制がかちとられている。

成田支部

4月19日支部総決起集会、19日以降籠城体制

佐倉支部

4月19日支部執行委員会、21日支部総決起集会

幕張支部

4月21日支部執行委員会

勝浦支部

4月20日支部拡大執行委員会、家族対策班結成
家族オルグ実施

4月23日支部総決起集会、23日以降籠城体制及び全組合員オルグ

※ 4月22日十五時、全ての組合員は「6名への不当呼び出し・弾圧粉碎、千葉県警包囲闘争・デモに総決起しよう。(集会十四時・デモ出発十五時、千葉市教育会館)